

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	中心市街地道路整備事業	会計	一般会計	事業No.	591	施策順No.	46-008	
		事業種別	政策・重点	予算科目	8-2-3-11-8			
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	土木課			
施策	46 活気ある街づくりの推進			事業期間	開始	21	終了	24

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市街地に居住する人、通行する車両、市民、来街者。						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		市民数:人		106630	105691	105036	107000	
	意図	安全で快適に通行できる。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	進捗率: % (当年度までの実施済額/全体事業費)			16	40	34	69	B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	平成22年度は計画どおり予定路線を実施できたが、飯田桜町駅線については沿道にホテル旅館店舗が多くあり、通行規制の関係から工期を延長したため平成23年度にずれ込んだ。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	都市再生整備計画指定エリア(中心市街地活性化基本計画区域)の内で、この事業に計画する歩道・側溝・車道の整備を行う。 計画路線延長 L=2,430m		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 道路改良、舗装、クオリティ歩道工事 市道飯田559号線 追手町2 L=119.3m 市道飯田113号線 追手町美博前 L=243.0m 市道通り町主税町線 通り町3、4 L=315.1m 市道東和町線 東和町 L=10.0m 市道飯田桜町駅線 錦町～東新町 L=394.1m(22→23繰越明許) 2 道路実施設計・物件調査	1 整備延長 2 実施設計業務 物件調査	1 L=1,081.5m 2 1式
23年度実施計画	1 道路改良、舗装、歩道段差解消工事 市道飯田58号線 馬場町 L=162.2m 市道通り町主税町線 通り町4 L=199.1m 市道飯田13号線 東和町 L=24m 市道東和伝馬町線 東和町 L=100m 市道東和町線 東和町 L=65.9m 市道飯田37号線 鈴加町・錦町 L=128.2m 市道飯田桜町駅線 東新町・桜町 L=143.4m 市道吾妻町線 吾妻町 L=300m 2 吾妻町ロータリー改修工事	1 整備延長 2 整備箇所	1 L=1,122.8m 2 1式

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (国)社会資本整備総合交付金(市街地整備)(交付対象事業全体で4.5/10) (地)合併特例(充当率95%) 22→23繰越明許 45,160千円
	国庫支出金		85,950	65,628	137,250	
	県支出金					
	起債		102,000	78,400	163,500	
	その他					
一般財源						
			5,490	4,251	13,750	
	計(A)		193,440	148,279	314,500	
	正規職員所要時間			600		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			2,146		
	トータルコスト A+B			150,425		

4 事業に対する市民や議会の意見

市街地道路の舗装・歩道が課題となっており、整備が望まれている。 特に、市道東和町線(中央公園部分)は、市街地のアクセスとして都市計画道路羽場大瀬本線の開通年度と完了時期に整合が図れるよう要望されている。 また、りんご並木から連続する緑地帯として、大宮桜並木通りの整備方針を検討する必要がある。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	中心市街地に人や物が集まり活気がある。	施策の成果指標又はムトス指標	中心市街地に住んでいる人数 まちなかの6スポットの1日あたりの延べ歩行者数 (本町1、銀座3、りんご並木、知久町1、駅前、中央通り4)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	中心市街地活性化基本計画に基づき、市街地の道路整備を実施している。		
	後期に向けた課題	中心市街地活性化基本計画に基づき、平成24年度までに完成させる。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	歩道の段差解消など歩きやすい道路整備を行うことで成果を向上させる。		
	後期に向けた課題	市街地には整備必要な道路が多く残っているため、継続して実施することが必要である。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	水道老朽管布設替と併行して実施することにより、舗装掘削廃材の縮減などコスト削減に努めている。		
	後期に向けた課題	整備路線の選定を柔軟に行い取り組んでいく。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市が管理する市道であり、市が整備することが妥当である。		
	後期に向けた課題	市が管理する市道であり、今後も引き続き市が実施する。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してききましたか	4年間の振り返り	市が管理する市道である。		
	後期に向けた課題	市が管理する市道である。		
全体を通じて	4年間の振り返り	歩道の段差解消や車道の排水性舗装など歩きやすい道路整備を行うことで、より中心市街地に人がにぎわうことが出来る。		
	後期に向けた課題	りんご並木を中心とした周辺の道路整備を実施することにより波及効果が発生するため、今後は桜並木通りへの動線が課題である。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------